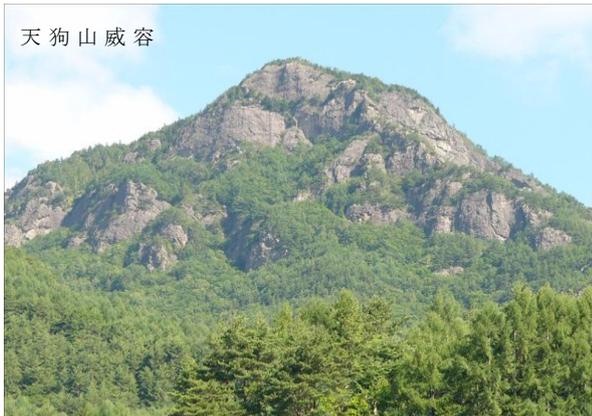


作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

天狗山・男山ースリル満点の岩稜伝いー



天狗山威容

小海線・信濃川上駅に下り立つと、すぐ駅前にもそそり立つ二つの岩峰が目につく。天狗山（1882m）と男山（1815m）である。4月下旬、この天狗山・男山に登った。前夜は、若い人達に付き合っ、いい年をして野辺山のオシャレな民宿に泊まり、ワインを楽しんだ。

翌朝、信濃川上駅からの村営バスを8時40分、大深山中央で下車し天狗山に向かう。カラマツ林の林道を進むと正面に天狗山が大きくのしかかって見えた。

9時半、道標に従って林道を離れ登山道に入る。いきなり登高線に直交するようなすごい急登である。10時40分、馬越



天狗山への岩稜

峠・天狗山間の主稜線に出て、コースを左に取り天狗山に向かう。狭いやせた岩稜の登下降の連続である。



天狗山頂

両手両足を総動員しての三点確保に神経を使う。ルートは左右はシャクナゲの密生だが、ツボミも未だしなのが残念だった。

11時50分天狗山頂。岩層の散らばる狭い山頂で昼食休憩。これから向かう男山が八ヶ岳連峰を背にそそり立って見えた。天気は上々、眺望も申し分なし。

30分の頂上滞在後、男山に向かう。頂上直下の下りがヤバい。まず左に回りこんでキレットの基部に出て、次いで北面を回りこんで尾根上に戻るルート。引き続きヤ



天狗からの男山

せた岩稜伝いの連続。結構登り下りが激しくキツイはずだが、岩場連続の緊張感のためか、さして息も上がらない。それよりも足元に見下ろす左のゴルフ場、右の自然公園造成の環境破壊の爪跡



男山からの天狗山

が痛々しかった。

14時15分男山頂上。素晴らしい眺望に恵まれた。西に八ヶ岳連峰、南西に甲斐駒や鳳凰三山が白く輝き、南には瑞牆、金峰、国師、甲武信の奥秩父主脈が一望出来た。また振り返ると、今朝登った天狗山が正に天狗の鼻の形の奇観だった。

男山からの下山は、前半の急勾配にアゴを出したが、後半は快適なカラマツ林の散歩道となって16時半、信濃川上駅に帰着いた。



男山からの八ヶ岳連峰